

研究者：高柳 遼（所属：東京医科歯科大学歯学部歯学科 5年）

研究題目：インドネシア歯科研修

目的

本事業の目的は、歯科学生がインドネシア大学歯学部において、附属病院の見学や講義・実習への参加を通して、インドネシアの歯科事情を知るとともに、インドネシアの歯科医師や学生と交流し、東南アジア圏での歯科医療ネットワークを形成することである。また、現地の地域保健活動の見学、日本人学校での健康教育を通して、歯科学生としての海外での活動について計画・行動することである。

対象および方法

対象：歯学科5年生2名

4年生2名

3年生3名

2年生1名

口腔保健学科4年生1名

大学院1年生1名（東京医科歯科大学教育メディア開発学分野）

期間：2016年8月27日～9月4日

場所：インドネシア（ジャカルタ，デポック），インドネシア大学歯学部（デポック校舎），
インドネシア日本人学校幼稚部

活動内容

- ・地域歯科保健活動の講義
- ・インドネシア大学歯学部の授業（PBL）参加
- ・スキルスラボでの実習
- ・インドネシア大学歯学部学生との活動ならびに文化交流
- ・インドネシア在留邦人の幼稚園児を対象に歯科健康教育

結果および考察

〈PBL・スキルスラボ見学と実習〉

デポック校舎でのインドネシア大学歯学部3年生，4年生の講義に参加した。インドネシア大学歯学部の授業は，日本のような大教室での講義形式はなく，学生約10名につきチューターの先生が1人つくPBL形式でのみ行われる。内容は補綴学，疫学，予防歯科であったが，学生はテーマ（またはケース）だけを与えられ，何について学ぶかについては学生自身で話し合っ
て決めて，次回までに各自で調べ，次の回で各自が情報を持ち寄って学んでいくという，完全に学生主導の方針であることに衝撃を受けた。先生は授業中にほとんど学生の話合いには口を出さ



PBL



Skills Lab

ず、最後に足りない点を補足するのみであった。私たちも初回と次の回に参加し、学生と一緒に放課後の調べものなどをしたが、彼らのモチベーションの高さと、知識量と勉強時間には圧倒された。さらに、私たちに合わせて講義はすべて英語で行われ、学生の語学力の高さにも驚くこととなった。内容や理論などは日本と大概変わらなかったが、一つ興味深かったのは治療方針の決定に関して違いがあったことである。患者のデンタルIQが高くなっている日本では「患者の希望」は治療方針決定の一つの要素であるが、インドネシアではまだその考えはあたりまえでなく、反対に驚かれたことが印象的だった。

デポックキャンパスには学生の実習用にスキルラボも設置しており、ファントムと顎模型を用いて、より実践的な実習を行えるような環境が整えてあった。私たちもスキルラボでワイヤーとプレートを用いて歯を固定する顎間固定を体験実習した。というのも、インドネシアの交通事情は日本とはかけ離れており、毎日通勤通学時間は大渋滞でかつ車線という概念がないかのような緊密さである。そして、オートバイの乗車率が高く、交通事故による顎骨骨折の救急対応が多いため、顎間固定の治療法は日本よりも頻度が高いと学んだ。余談ではあるが、私は日本に帰国し口腔外科の病棟実習にて、実際に下顎骨骨折の患者さんの顎間固定のアシストを行った。インドネシア研修のスキルラボ実習での経験が生き、非常にスムーズに行うことができたことは幸運にも研修の成果の一つとなった。

〈幼稚園での歯科健康教育〉

私たちはインドネシア在留邦人の子どもが通う幼稚園に行き、歯科健康教育とTBI（口腔衛生指導）を行った。歯科健康教育は事前に幼稚園児が楽しめるようにアンパンマンのパペットを使った人形劇を行った。小さい子どもに対して何かを伝えるという難しさを実感した。4歳児と5歳児では理解力と話を聞く力に驚くほどの違いがあり、5歳児相手の発表ではよりスムーズに劇や指導を行えたが、反対に劇中の小さなミスに過敏に反応したのも5歳児の園児であった。しかし、私たちが思っていた以上に園児らは歯磨きの仕方や重要性を既に理解しており、園内の歯科的教育水準の高さに驚かされた。

4歳と5歳の幼稚園児へなるべく易しい説明をしようと心掛けたが、一番心配であったことは、私たちからの指示や説明に従ってくれるかどうかであった。しかし、好奇心旺盛な年齢であ



アンパンマンの劇による口腔衛生指導



TBI

ることや園内の教育の高さも相まって、よく話を聞いてくれる園児ばかりであった。また、この年齢特有の褒められたい、認められたい欲を刺激するよう、出来なかったら促す（お話をちゃんと聞いてくれるかっこいいお兄さんお姉さん達を見たいなあ等）、できたら褒めるといった方法が成功に繋がり、園児との接し方を知る貴重な機会となった。

〈インドネシア大学歯学部学生との交流〉

インドネシア大学では歯学部4年生の学生と主に活動を共にした。私たちが授業を共に受けたこと以外にも、授業終了後の放課後の時間では、ホテル周辺の施設の案内や、バティック作成体験、クラブ活動への参加、伝統的ダンスの体験など、様々な体験をすることができた。反対に私たちからインドネシア大学の学生へ日本の紹介も行った。日本で流行している遊びを一緒に行ったり、文化交流会では浴衣や甚平の紹介や、羽子板で実際に対決したりと、楽しむ機会を設けることができたのは非常に良い経験となった。

成果報告：

インドネシアにおける研修の報告書を作成した。また、本学で開催されたグローバルリトリート（2016年10月9日）、国際シンポジウム（2016年10月18日）で、本研修についての成果発表を行った。その他、歯学科生の海外派遣計画に伴う説明会（2016年11月14日）にて、歯学科2、3年生向けに本インドネシア研修の発表を行った。